会計科

日商簿記 1級3名合格

２０１９年１１月に実施された、第１５３回日本商工会議所主催簿記検定１級に本校会計科の３名が合格しました。この試験は公認会計士や税理士試験といった高度な会計資格の登竜門と位置づけられ全国平均合格率は１０％前後の難易度の高いものです。
３名の合格者のコメントです。

３年　棚橋　佑真（穂積中学校出身）
私は今回の１級の検定試験は３回目で三度目の正直でした。不合格だった２回は合格点の７０点まであと少しの６０点代で大変悔しい思いをしました。しかし、もう一歩努力すれば合格できると信じて精一杯努力することができ今回の結果を得ることができました。１級の受験を通じて、失敗しても何度もチャレンジすればいつかは成功できることを学びました。大学では経営学について詳しく学び、将来は企業を支える人材として社会で活躍していきたいです。

２年　高橋　香音（東安中学校出身）
今回、日商簿記検定１級を合格できて大変嬉しく思います。私が合格できた理由を考えると２つあると思います。まず１つ目は、復習を１つ１つ丁寧に行ったことです。わからない箇所をそのままにせず諦めることなく、分かるまで粘って努力できました。投げ出さずに最後まで頑張ることの大切さを改めて学びました。２つ目に親や先生方、そして仲間の協力や支えがあったからです。苦しい時に支えてくださった多くの方に感謝しています。今後は、さらに簿記会計の知識を身に付けられるように努力します。

２年　西脇　文音（神戸中学校出身）
今回は２回目の受験でした。そのため、１回目の受験で理解が足りなかった箇所を重点的に学習することを１番頑張りました。そのうえで、基礎的なものだけではなく、応用的な答案練習にも挑戦しました。そのなかでわからない問題がいくつもでてきましたが、先生方に分かるまで時間を割いて教えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。私は将来、簿記会計の知識を活かし公認会計士になりたいという夢があります。この経験を生かしてさらに頑張ります。